

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果

埼玉県保健医療部保健医療政策課

# 定量基準分析（埼玉方式）の趣旨とこれまでの経緯

## 趣 旨

定量的な基準により地域の医療機能の現状を分析し、各医療機関が自機関の立ち位置を確認し、医療機能の分化と連携を議論するための「目安」を提供するもの。

### 平成29年度

- 7月 委託業者の公募・業者決定（みずほ情報総研）
- 8月～10月 データ分析方針の検討
- 11月・2月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析方針説明・中間報告・意見聴取

### 平成30年度

- 4月 「埼玉県地域医療構想推進会議」での分析結果報告・意見聴取
- 5月 厚労省主催「地域医療構想に関するワーキンググループ」で事例発表
- 6月 厚労省主催「都道府県医療政策研修」で事例発表
- 8月 「地域医療構想調整会議の活性化のための地域の実情に応じた定量的な基準の導入について」通知 ※厚労省が各都道府県に埼玉方式の分析ツールを提供

### 令和元年度

- 2～3月 平成30年度診療報酬改定を踏まえた分析業務の委託（みずほ情報総研）

# 埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分					
	主に成人		周産期	小児		緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の急性期一般入院料1 小児科の一般病棟7:1		緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の急性期一般1・ 一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等					緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

具体的な機能に応じて区分線を引く

## 機能区分基準の考え方

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。
- ② 区分線 1 のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。
- ③ 区分線 2 のしきい値は、急性期一般入院料 1 の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。
- ④ 区分線 1・2 を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の 1 日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。  
**区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。**

# 高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

## ○救命救急やICU等で特に多く提供されている医療

- A：【手術】全身麻酔下手術
- B：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C：【がん】悪性腫瘍手術
- D：【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E：【脳卒中】脳血管内手術
- F：【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術（※）
- G：【救急】救急搬送診療料
- H：【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I：【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J：【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

※...診療報酬上の入院料ではなくデータから特定がしにくいCCUへの置き換えができなかったこと、  
経皮的冠動脈形成術の算定が一般病棟7:1よりもICU等に集中していることによる。

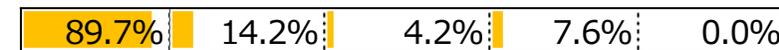
☆...機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→ これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

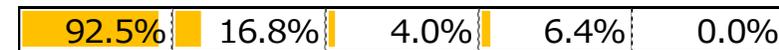
# 区分線 1 で高度急性期に分類される病棟の割合（平成30年度報告）

区分線1で高度急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU・SCU・HCU	急性期一般病棟1,一般病棟7:1(※)	左記以外の病院一般病棟(※)	有床診の一般病床(※)	地域包括ケア病棟
手術	A	全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	43.2%	2.6%	0.5%	1.9%	0.0%
	B	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.0%	3.7%	0.0%	0.6%	0.0%
がん	C	悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	22.7%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%
脳卒中	D	超急性期脳卒中加算	あり	あり	21.6%	1.3%	0.0%	0.0%	算定不可
	E	脳血管内手術	あり	あり	33.0%	2.1%	0.5%	0.0%	0.0%
心血管疾患	F	経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	23.9%	1.6%	0.5%	0.6%	0.0%
救急	G	救急搬送診療料	あり	あり	12.5%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可
	H	救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管 ・体表・食道ペースティング法 ・非開胸的心マッサージ ・カウンターショック ・心膜穿刺 ・食道圧止血チューブ挿入法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	65.9%	2.6%	1.0%	1.3%	0.0%
	I	重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的肺動脈圧測定 ・持続緩徐式血液濾過 ・大動脈バルーンポンピング法 ・経皮的心肺補助法 ・人工心臓 ・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・人工心肺 ・血漿交換療法 ・吸着式血液浄化法 ・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	45.5%	1.1%	0.5%	0.0%	0.0%
全身管理	J	全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超) ・ドレーン法 ・胸腔穿刺 ・人工呼吸(5時間超)	8.0回/月・床以上	320回/月以上	44.3%	1.6%	0.0%	0.0%	2.6%
上記A～Jのうち1つ以上を満たす					90.9%	14.5%	2.5%	4.4%	2.6%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。



(参考) 平成29年度該当病床割合



(参考) 平成28年度該当病床割合

## 急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○急性期一般入院料1（従前の一般病棟7:1）にて多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

■ P：【重症度、医療・看護必要度】

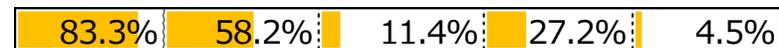
基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「B14又はB15に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

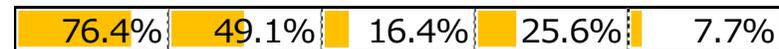
# 区分線2で急性期に分類される病棟の割合（平成30年度報告）

区分線2で急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合				
			稼働病床1床当たりの回数	40床の病棟 に換算した場合	急性期一般 病棟1,一般 病棟7:1 (※)	急性期一般 病棟2-7,一 般病棟10:1 (※)	その他 一般病棟 (※)	有床診の一般 病床 (※)	地域包括ケア 病棟
手術	K	手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	8.4%	4.1%	2.6%	19.6%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	20.5%	10.7%	1.3%	1.3%	0.0%
がん	M	放射線治療（レセプト枚数）	0.1枚/月・床以上	4枚/月以上	8.4%	1.7%	0.0%	0.0%	2.6%
	N	化学療法（日数）	1.0日/月・床以上	40日/月以上	13.7%	2.5%	2.6%	0.0%	0.0%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数	10人/年・床以上	33.3人/月以上	16.8%	19.0%	2.6%	0.0%	7.9%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	I:30%以上 II:25%以上		63.4%	47.9%	9.2%	0.0%	5.3%
上記K～Pのうち1つ以上を満たす					82.1%	62.8%	18.4%	20.3%	15.8%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。



（参考）平成29年度該当病床割合



（参考）平成28年度該当病床割合

# 平成30年度（2018）診療報酬改定に伴う変更点

- 区分線 2（急性期と回復期の区分線）の基準として用いる重症度の評価（急性期と判断する基準）について、診療報酬改定に合わせて見直しを行った。

～H29

H30～

一般病棟 7:1

一般病棟 10:1

一般病棟 13:1

一般病棟 15:1

※ 診療報酬改定により入院料が細分化されたが、一般病棟7:1入院料は急性期一般入院料1に踏襲されている

急性期一般入院料1

急性期一般入院料2

急性期一般入院料3

急性期一般入院料4

急性期一般入院料5

急性期一般入院料6

急性期一般入院料7

地域一般入院料1

地域一般入院料2

地域一般入院料3

○診療報酬改定に合わせて、急性期に該当する患者の基準について、見直しを行う。

重症度、看護・医療必要度

- ・ A得点2点以上かつB得点3点以上
- ・ A得点3点以上
- ・ C得点1点以上

→該当する患者が25%以上

重症度、看護・医療必要度

- ・ A得点2点以上かつB得点3点以上
- ・ [B14]又は[B15]に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上
- ・ A得点3点以上
- ・ C得点1点以上

→該当する患者が 必要度Ⅰ：30%以上  
必要度Ⅱ：25%以上

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

4機能区分別の病床稼働率について、「(国の基準による)地域医療構想における想定%」と「今回の区分結果の%」との比較表示をしている。

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	88病床	597人/日	888床	67.7%	3.6日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病床	2,037人/日	2,609床	77.1%	9.8日	
		急性期	367病床	12,061人/日	15,516床	79.2%	12.1日	
	回復期リハビリ病床	回復期	283病床	6,694人/日	10,237床	68.1%	18.3日	
		回復期	78病床	2,980人/日	3,628床	89.9%	64.6日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	65病床	2,561人/日	3,014床	83.0%	93.8日	
	医療療養病床	慢性期	187病床	7,561人/日	8,817床	87.4%	221.3日	
介護療養病床	慢性期	16病床	653人/日	802床	78.8%	265.8日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病床	265人/日	417床	62.6%	14.2日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	94病床	1,593人/日	2,267床	75.6%	6.7日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	11病床	273人/日	336床	81.2%	7.6日	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		急性期	17病床	306人/日	531床	60.9%	5.7日	
		回復期	3病床	17人/日	59床	40.7%	7.7日	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	3病床	62人/日	79床	78.7%	21.7日	
		慢性期	12病床	123人/日	236床	56.2%	21.4日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	3,172人/日	75.0%	74.1%
急性期	14,021人/日	78.0%	78.2%
回復期	9,691人/日	90.0%	73.2%
慢性期	10,898人/日	92.0%	85.4%
不明	150人/日	—	13.5%
合計	37,932人/日	—	76.7%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床	89.9%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1、一般病床7:1	74.0%
うち産科・小児科を除く他の一般病床	68.5%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等	75.2%
うち産科・小児科を除く有床診療所	42.4%
うち小児科の一般病床・有床診療所	40.7%

## 4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	192病床	3,172人/日	4,250床	6,014床	5,528床	74.1%	7.5日
急性期 計	481病床	14,021人/日	18,393床	25,138床	17,954床	78.2%	10.8日
回復期 計	364病床	9,691人/日	13,924床	5,336床	16,717床	73.2%	23.1日
慢性期 計	280病床	10,898人/日	12,869床	12,998床	14,011床	85.4%	159.2日
入院料に関する報告がなく分類できない病床の病床(※)	53病床	150人/日	1,130床	1,080床※	—	13.5%	11.8日
合計等	1,370病床	37,932人/日	50,566床	50,566床	54,210床	76.7%	16.8日

4機能区分	入院料に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	5床
急性期	287床
回復期	73床
慢性期	62床
休棟中・無回答	703床
合計	1,130床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。

4機能区分別の病床数について、「今回の区分結果」「病床機能報告」「地域医療構想の必要病床数」の3つを比較表示。

回復期については、入院料や診療科の種類によって、より細分化する形で、病床稼働率を表示。

# (参考) 平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果 【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり 入院患者数	基準該当 病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	548人/日	835床	65.7%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	1,858人/日	2,508床	74.1%	
		急性期	343病棟	11,780人/日	14,764床	79.8%	
		回復期	262病棟	6,604人/日	9,746床	67.8%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	74病棟	3,103人/日	3,448床	90.0%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,457人/日	2,839床	86.5%	
	医療療養病床	慢性期	172病棟	6,921人/日	8,067床	85.8%	
介護療養病床	慢性期	9病棟	370人/日	464床	79.8%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	207人/日	342床	60.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病棟	1,488人/日	2,260床	65.8%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	183人/日	336床	54.5%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	308人/日	533床	57.9%	
		回復期	2病棟	26人/日	47床	54.4%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	76人/日	114床	67.0%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	7病棟	82人/日	131床	62.7%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり 入院患者数	基準該当 病床数	病床稼働率	各医療機関が 報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の 必要病床数 (地域医療構想)
高度急性期 計	185病棟	2,797人/日	4,021床	69.6%	6,365床	5,528床
急性期 計	457病棟	13,652人/日	17,671床	77.3%	24,702床	17,954床
回復期 計	338病棟	9,733人/日	13,241床	73.5%	4,830床	16,717床
慢性期 計	247病棟	9,830人/日	11,501床	85.5%	13,013床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	102人/日	512床	20.0%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	1,772床	—
合計等	1,262病棟	36,114人/日	46,946床	76.9%	50,682床	54,210床

注：病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が3,736床ある。

	埼玉県
高度急性期	23床
急性期	1,007床
回復期	138床
慢性期	1,251床
休棟・未報告等	1,317床
計	3,736床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

# (参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果 【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	許可病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	454人/日	733床	61.9%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,257人/日	2,852床	79.1%	
		急性期	292病棟	9,935人/日	12,713床	78.1%	
		回復期	257病棟	6,511人/日	9,968床	65.3%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,367人/日	2,737床	86.5%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	1,814人/日	2,027床	89.5%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,081人/日	6,837床	88.9%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	512人/日	587床	87.2%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	559人/日	581床	96.2%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,052人/日	1,550床	67.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の 一般病棟等	高度急性期	3病棟	92人/日	116床	79.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	337人/日	723床	46.7%	
		回復期	3病棟	61人/日	87床	70.5%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	62人/日	97床	63.6%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	65人/日	99床	65.3%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	許可病床数	病床稼働率	平成28年度病床機能報告において各医療機関が報告した病床数	地域医療構想における2025年の必要病床数
高度急性期 計	180病棟	3,362人/日	4,282床	78.5%	6,707床	5,528床
急性期 計	376病棟	11,386人/日	15,083床	75.5%	24,118床	17,954床
回復期 計	320病棟	8,939人/日	12,792床	69.9%	4,437床	16,717床
慢性期 計	209病棟	8,472人/日	9,550床	88.7%	12,965床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	46人/日	318床	14.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	2,145床	—
合計等	1,112病棟	32,205人/日	42,025床	76.6%	50,372床	54,210床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2が突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が8,347床ある。

	埼玉県
高度急性期	115床
急性期	2,497床
回復期	775床
慢性期	2,692床
休棟・未報告等	2,268床
計	8,347床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【南部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率	平均在棟日数	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	8病床	50人/日	65床	76.4%	3.5日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	7病床	267人/日	322床	83.7%	12.9日	
		急性期	35病床	1,285人/日	1,620床	85.0%	11.9日	
		回復期	23病床	658人/日	886床	72.9%	17.1日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	6病床	253人/日	262床	96.4%	69.8日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	2病床	65人/日	72床	89.9%	25.3日	
	医療療養病床	慢性期	14病床	526人/日	627床	83.2%	187.1日	
介護療養病床	慢性期	2病床	91人/日	96床	94.7%	155.1日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	4病床	33人/日	42床	72.8%	12.5日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	9病床	212人/日	247床	93.5%	6.7日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	1病床	21人/日	28床	75.8%	5.4日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	2病床	35人/日	50床	69.5%	6.0日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
		慢性期	2病床	28人/日	42床	65.9%	17.5日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	372人/日	75.0%	81.3%
急性期	1,532人/日	78.0%	85.6%
回復期	911人/日	90.0%	78.4%
慢性期	710人/日	92.0%	84.4%
不明	0人/日	—	0.0%
合計	3,524人/日	—	81.0%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	96.4%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	80.0%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	64.7%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	80.5%
うち産科・小児科を除く有床診療所	65.9%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

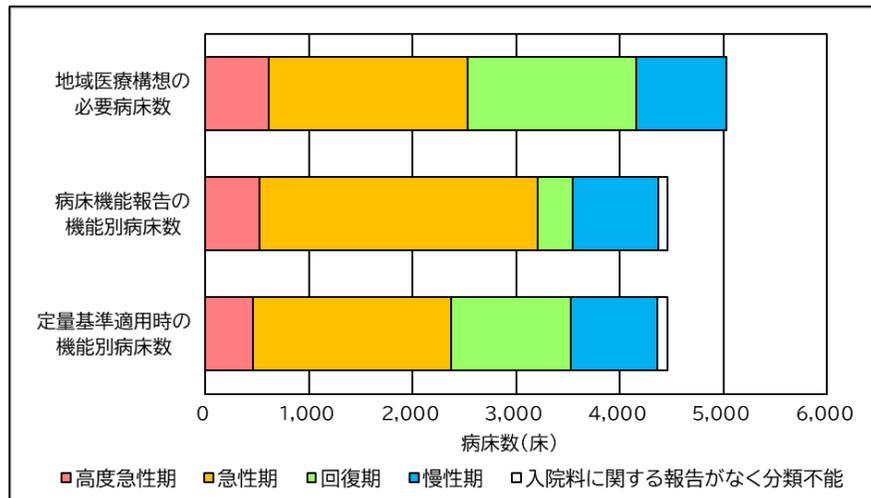
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率	平均在棟日数
高度急性期 計	20病床	372人/日	457床	519床	609床	81.3%	8.9日
急性期 計	46病床	1,532人/日	1,917床	2,682床	1,922床	85.6%	10.5日
回復期 計	29病床	911人/日	1,148床	340床	1,623床	78.4%	21.9日
慢性期 計	20病床	710人/日	837床	832床	871床	84.4%	88.2日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	6病床	0人/日	98床	84床※	-	0.0%	-
合計等	121病床	3,524人/日	4,457床	4,457床	5,025床	81.0%	14.6日

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	18床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	80床
	98床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



## 【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 高度急性期と急性期の病床稼働率が想定病床稼働率（高度急性期75%、急性期78%）を大幅に上回る。また、一般病棟等における高度急性期の平均在棟日数が12.9日と県平均より長い。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟の病床稼働率が96.4%ときわめて高い。また、全病床数に占める割合が小さい（5.9% 県平均7.1%）。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟の不足が、高度急性期・急性期から回復期への円滑な移行にあたっての課題となっているのではないかと。
- ・ また、現状で病床稼働率が高い高度急性期の増が課題ではないかと。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【南西部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	10病床	33人/日	66床	49.6%	2.7日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	8病床	185人/日	348床	53.0%	13.4日	
		急性期	27病床	828人/日	1,143床	73.0%	11.8日	
		回復期	30病床	727人/日	1,067床	65.5%	19.8日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	8病床	254人/日	319床	88.0%	74.5日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	11病床	400人/日	441床	89.8%	136.8日	
	医療療養病床	慢性期	13病床	561人/日	598床	94.6%	249.2日	
介護療養病床	慢性期	1病床	26人/日	32床	82.3%	392.4日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	1病床	4人/日	4床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	8病床	138人/日	150床	100.1%	5.2日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	2病床	40人/日	67床	60.2%	4.5日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	2病床	18人/日	41床	43.1%	33.3日	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	19病床	222人/日	418床	285床	425床	52.5%	8.4日
急性期 計	37病床	1,006人/日	1,360床	2,556床	1,685床	75.2%	9.5日
回復期 計	38病床	980人/日	1,386床	360床	1,356床	69.9%	24.2日
慢性期 計	27病床	1,005人/日	1,112床	1,067床	1,311床	90.1%	173.7日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	0病床	0人/日	0床	8床※	-	-	-
合計等	121病床	3,213人/日	4,276床	4,276床	4,777床	74.7%	16.9日

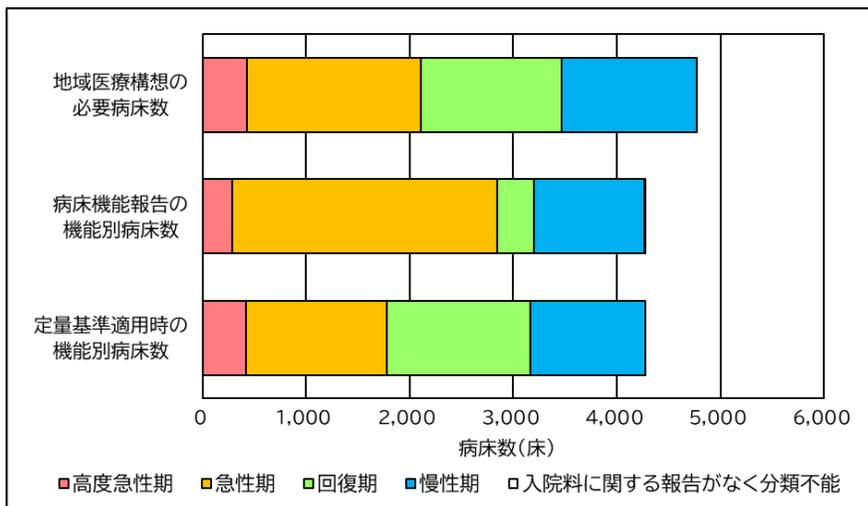
※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入棟患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	222人/日	75.0%	52.5%
急性期	1,006人/日	78.0%	75.2%
回復期	980人/日	90.0%	69.9%
慢性期	1,005人/日	92.0%	90.1%
不明	0人/日	-	-
合計	3,213人/日	-	74.7%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	88.0%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	48.6%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	78.4%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	64.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所	29.6%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	0床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	0床
	0床



## 【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 高度急性期の病床稼働率がきわめて低く（52.5%）、平均在棟日数が8.4日と県平均より長い（県平均7.5日）。高度急性期の患者の新規入棟が少ない状態がうかがえる（地域医療構想においても、域内完結率の低さや域外流出の超過傾向の強さが顕著）。
- ・ 基幹的な医療機関の多い東京や川越比企への一定程度の患者流出が生じるとしても、区域内の高度急性期機能を担う病院の特色を強化することが課題ではないか。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【東部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	11病棟	51人/日	91床	60.2%	3.5日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	8病棟	227人/日	274床	82.8%	8.8日	
		急性期	63病棟	2,123人/日	2,644床	78.9%	11.7日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	39病棟	894人/日	1,293床	70.3%	18.7日	
		回復期	16病棟	567人/日	774床	93.9%	59.0日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	14病棟	555人/日	651床	84.5%	87.9日	
	医療療養病床	慢性期	20病棟	794人/日	955床	82.9%	249.0日	
介護療養病床	慢性期	2病棟	88人/日	101床	87.0%	335.7日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	5病棟	4人/日	50床	6.2%	6.0日	
	産科の一般病床	急性期	14病棟	222人/日	302床	78.3%	6.0日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	4病棟	93人/日	147床	63.3%	5.8日	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	2病棟	25人/日	34床	72.3%	17.9日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	281人/日	75.0%	69.6%
急性期	2,438人/日	78.0%	78.1%
回復期	1,461人/日	90.0%	78.0%
慢性期	1,461人/日	92.0%	83.5%
不明	48人/日	—	16.6%
合計	5,689人/日	—	76.4%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	93.9%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	88.6%
うち産科・小児科を除くその他の一般病棟	65.8%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	89.4%
うち産科・小児科を除く有床診療所	43.5%
うち小児科の一般病棟・有床診療	-

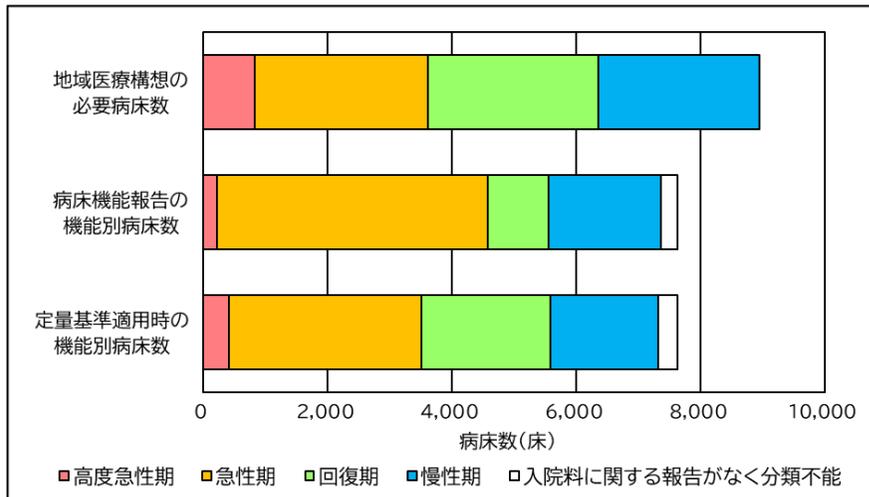
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	24病棟	281人/日	415床	215床	831床	69.6%	7.2日
急性期 計	81病棟	2,438人/日	3,093床	4,355床	2,783床	78.1%	10.3日
回復期 計	55病棟	1,461人/日	2,067床	980床	2,734床	78.0%	25.5日
慢性期 計	38病棟	1,461人/日	1,741床	1,812床	2,587床	83.5%	131.2日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	13病棟	48人/日	305床	259床※	-	16.6%	94.4日
合計等	211病棟	5,689人/日	7,621床	7,621床	8,935床	76.4%	16.5日

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	5床
急性期	17床
回復期	19床
慢性期	43床
休棟中・無回答	221床
	305床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



## 【集計分析結果から想定される課題】

- 高度急性期のうち、救命救急・ICUの病床稼働率が低い。また、高度急性期の病床数が全病床数に占める割合も小さい(5.4% 県平均8.4%) (病床機能報告における報告ベースでみるとさらに小さい)。
- 回復期の病床稼働率は県平均に比べて高い(78%)一方で、高度急性期・急性期の平均在棟日数は県平均より短い(高度急性期7.2日、急性期10.3日)。
- 高度急性期と慢性期について、現在の病床数に比べ、地域医療構想における2025年の必要病床数がきわめて多い。
- 基幹的な医療機関の多い東京への一定程度の患者流出が生じるとしても、区域内における高度急性期機能をどの病院・病棟が担うのかを明確化した上で、その増が必要ではないか。
- 慢性期の病床について、「医療区分1の患者等の在宅移行の推進」「病床稼働率の向上」「病床数の増」が、県平均以上に必要ではないか。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【さいたま圏域】

大区分	入院科・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	19病床	145人/日	189床	76.5%	3.3日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	15病床	516人/日	606床	82.9%	8.9日	
		急性期	59病床	1,935人/日	2,406床	82.5%	11.7日	
		回復期	31病床	619人/日	1,053床	68.6%	20.2日	
	回復期リハビリ病床	回復期	9病床	311人/日	440床	93.6%	60.9日	
	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	6病床	195人/日	291床	61.2%	166.7日	
	医療療養病床	慢性期	20病床	855人/日	956床	86.7%	206.0日	
介護療養病床	慢性期	3病床	115人/日	142床	81.2%	227.6日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	8病床	103人/日	138床	74.8%	13.1日	
	産科の一般病床	急性期	17病床	212人/日	344床	68.6%	7.3日	
小児	小児入院管理科・小児科の一般病床等	高度急性期	7病床	173人/日	204床	84.9%	8.4日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	5病床	89人/日	145床	61.4%	5.9日	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	1病床	16人/日	22床	73.9%	23.0日	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	937人/日	75.0%	81.1%
急性期	2,253人/日	78.0%	79.8%
回復期	931人/日	90.0%	75.7%
慢性期	1,166人/日	92.0%	80.3%
不明	14人/日	—	8.0%
合計	5,300人/日	—	77.3%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病床	93.6%
うち産科・小児科を除く急性期一般病床1・一般病床7:1	80.2%
うち産科・小児科を除く他の一般病床	67.1%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病床等	74.0%
うち産科・小児科を除く有床診療所	0.0%
うち小児科の一般病床・有床診	-

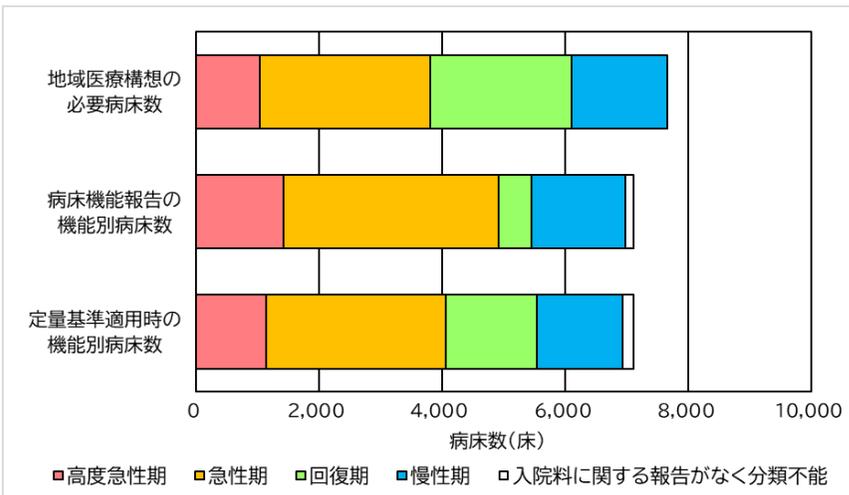
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	49病床	937人/日	1,137床	1,418床	1,039床	81.1%	7.1日
急性期 計	82病床	2,253人/日	2,917床	3,504床	2,770床	79.8%	10.7日
回復期 計	40病床	931人/日	1,493床	529床	2,301床	75.7%	26.4日
慢性期 計	29病床	1,166人/日	1,389床	1,529床	1,554床	80.3%	200.5日
入院料に関する報告がなく分類できない病床の病床(※)	9病床	14人/日	173床	129床※	-	8.0%	15.9日
合計等	209病床	5,300人/日	7,109床	7,109床	7,664床	77.3%	13.2日

4機能区分	入院料に関する報告がない病床等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	45床
回復期	1床
慢性期	19床
休棟中・無回答	108床
	173床

※休棟もしくは(は現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入棟患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満「産科以外で病床稼働率が100%超」の病床を除いて算出。



## 【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 高度急性期の病床稼働率（81.1%）が想定（75%）を大幅に上回る一方、現在の病床数よりも、地域医療構想における2025年の必要病床数はやや少ない。
- ・ 高度急性期・急性期の平均在棟日数（高度急性期7.1日、急性期10.7日）は県平均より短い。
- ・ 回復期について、現在の病床数に比べ、地域医療構想における2025年の必要病床数がきわめて多い。
- ・ 現状で病床稼働率が高い高度急性期と、今後の需要増が見込まれる回復期について、病床の増（回復期のうち軽症急性期については、病床稼働率の向上を通じた需要増への対応も含む）が課題ではないか。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【県央圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	7病棟	51人/日	80床	64.0%	3.6日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	3病棟	130人/日	143床	90.7%	10.2日	
		急性期	26病棟	837人/日	1,070床	82.0%	12.5日	
		回復期	23病棟	478人/日	772床	67.7%	17.1日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	6病棟	208人/日	237床	87.8%	74.6日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	2病棟	70人/日	91床	77.4%	81.4日	
	医療療養病床	慢性期	16病棟	639人/日	706床	89.5%	339.1日	
介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	6病棟	93人/日	107床	89.8%	6.2日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		急性期	1病棟	13人/日	14床	93.5%	4.6日	
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	2病棟	46人/日	57床	80.6%	21.3日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病棟	13人/日	15床	88.7%	33.7日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	181人/日	75.0%	81.1%
急性期	989人/日	78.0%	82.7%
回復期	686人/日	90.0%	72.8%
慢性期	723人/日	92.0%	88.0%
不明	15人/日	—	12.1%
合計	2,593人/日	—	78.2%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	87.8%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	76.6%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	64.0%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	-
うち産科・小児科を除く有床診療所	38.5%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

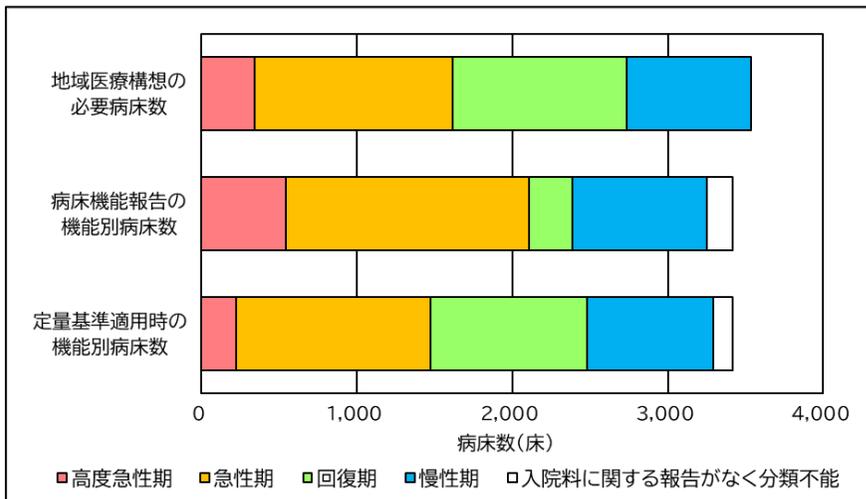
## 4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	10病棟	181人/日	223床	544床	344床	81.1%	6.7日
急性期 計	35病棟	989人/日	1,248床	1,565床	1,273床	82.7%	11.4日
回復期 計	29病棟	686人/日	1,009床	277床	1,120床	72.8%	22.5日
慢性期 計	19病棟	723人/日	812床	866床	797床	88.0%	220.8日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	5病棟	15人/日	123床	163床※	-	12.1%	9.0日
合計等	98病棟	2,593人/日	3,415床	3,415床	3,534床	78.2%	16.9日

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	42床
回復期	19床
慢性期	0床
休棟中・無回答	62床
	123床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入棟患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



## 【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 高度急性期の病床稼働率が想定 of 病床稼働率 (75%) を大幅に上回る。
- ・ 高度急性期について、現在の病床数に比べ、地域医療構想における2025年の必要病床数がきわめて多い。
- ・ 一方で、病床機能報告での報告ベースでは、2025年の必要病床数を大きく上回る。
- ・ このため、地域医療構想調整会議で協議を行う際には高度急性期を担う病棟が満たすべき要件を明確化した上で、それをどの病院・病棟が担うかを整理しながら、その増強を図ることが課題ではないか。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【川越比企圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	7病床	77人/日	98床	74.2%	4.7日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	6病床	163人/日	199床	79.1%	8.8日	
		急性期	50病床	1,722人/日	2,077床	81.0%	12.3日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	39病床	898人/日	1,475床	58.7%	17.0日	
		回復期	11病床	465人/日	560床	80.4%	67.4日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	8病床	345人/日	376床	92.8%	38.4日	
	医療療養病床	慢性期	30病床	1,321人/日	1,431床	92.1%	275.6日	
介護療養病床	慢性期	1病床	8人/日	61床	12.7%	44.3日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	7病床	121人/日	180床	67.0%	16.3日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	13病床	254人/日	335床	85.9%	6.4日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病床	79人/日	104床	75.6%	7.0日	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
		慢性期	2病床	21人/日	50床	41.1%	19.1日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	440人/日	75.0%	73.1%
急性期	1,976人/日	78.0%	81.7%
回復期	1,362人/日	90.0%	64.6%
慢性期	1,694人/日	92.0%	87.7%
不明	51人/日	—	29.7%
合計	5,522人/日	—	76.2%

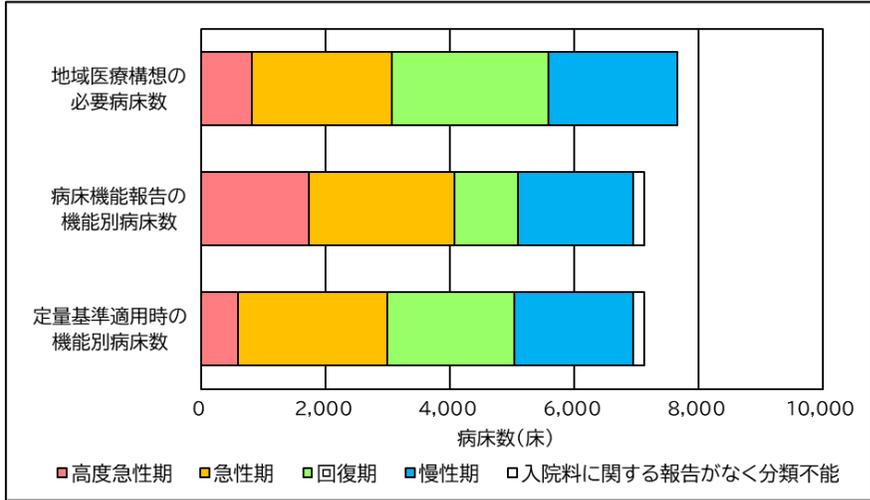
回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	80.4%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	55.1%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	59.3%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	69.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所	38.5%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

## 4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	23病床	440人/日	581床	1,726床	802床	73.1%	9.0日
急性期 計	63病床	1,976人/日	2,412床	2,342床	2,260床	81.7%	10.8日
回復期 計	50病床	1,362人/日	2,035床	1,024床	2,518床	64.6%	22.8日
慢性期 計	41病床	1,694人/日	1,918床	1,850床	2,072床	87.7%	145.4日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	5病床	51人/日	170床	174床※	-	29.7%	15.6日
合計等	182病床	5,522人/日	7,116床	7,116床	7,652床	76.2%	18.3日

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	97床
回復期	34床
慢性期	0床
休棟中・無回答	39床
	170床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。  
\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



## 【集計分析結果から想定される課題】

- 回復期について現在の病床数よりも、将来の必要病床数が大きく上回っている。
- 一方で、回復期の病床稼働率が、県平均と比べて低い(64.6%)。
- 回復期について、回復期リハビリテーション病棟と軽症急性期の両方について、病床稼働率の向上も含めて需要増への対応が必要ではないか。
- 病床機能報告での報告ベースでの高度急性期の病床数が多いことから、地域医療構想調整会議で協議を行う際には、高度急性期を担う病棟が満たすべき要件を明確化した上で、それをどの病院・病棟が担うかを整理することが必要ではないか。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果 【西部】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	14病床	112人/日	162床	69.0%	4.1日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	10病床	286人/日	393床	72.8%	10.2日	
		急性期	42病床	1,222人/日	1,676床	74.3%	12.0日	
		回復期	39病床	1,089人/日	1,550床	75.5%	18.0日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	11病床	444人/日	501床	89.2%	64.2日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	10病床	392人/日	500床	78.7%	348.5日	
	医療療養病床	慢性期	34病床	1,451人/日	1,712床	88.1%	210.6日	
介護療養病床	慢性期	7病床	325人/日	370床	84.7%	600.8日		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	1病床	0人/日	3床	0.0%	-	
	産科の一般病床	急性期	12病床	194人/日	314床	64.5%	7.4日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病床	16人/日	26床	61.6%	10.1日	
		回復期	2病床	16人/日	40床	40.7%	7.7日	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病床	10人/日	20床	49.1%	27.1日	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	398人/日	75.0%	71.3%
急性期	1,432人/日	78.0%	72.5%
回復期	1,549人/日	90.0%	77.4%
慢性期	2,177人/日	92.0%	85.7%
不明	1人/日	-	0.0%
合計	5,557人/日	-	77.7%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	89.2%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	81.5%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	74.4%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	80.9%
うち産科・小児科を除く有床診療所	66.1%
うち小児科の一般病棟・有床診	40.7%

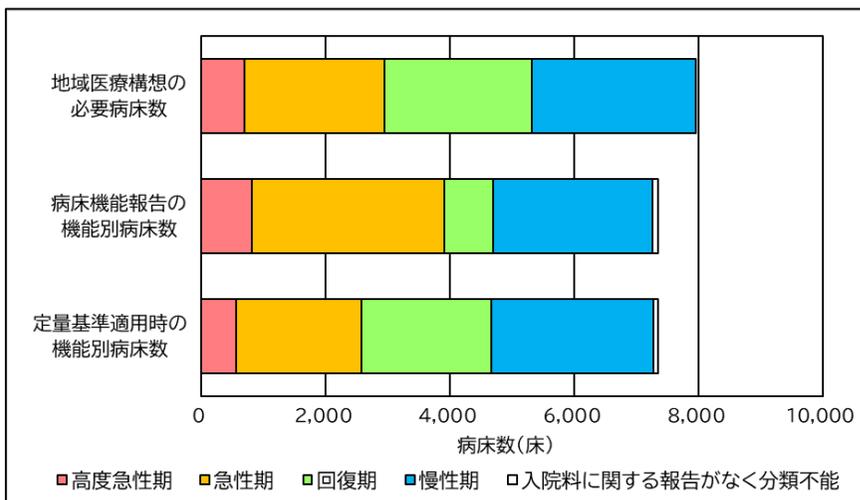
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	25病床	398人/日	558床	815床	694床	71.3%	7.2日
急性期 計	55病床	1,432人/日	2,016床	3,085床	2,249床	72.5%	11.0日
回復期 計	52病床	1,549人/日	2,091床	787床	2,370床	77.4%	21.2日
慢性期 計	52病床	2,177人/日	2,602床	2,560床	2,638床	85.7%	232.0日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	6病床	1人/日	75床	95床※	-	0.0%	-
合計等	190病床	5,557人/日	7,342床	7,342床	7,951床	77.7%	20.4日

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	20床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	55床
	75床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入棟患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



## 【集計分析結果から想定される課題】

- 各機能の病床稼働率や平均在棟日数は、県平均と同程度のものが多い。
- 地域医療構想で想定されている病床稼働率と比べると、回復期の乖離幅が大きく（想定90%に対して77.4%）、慢性期の病床稼働率も想定より低い（想定92%に対して85.7%）。
- 回復期のうち、回復期リハビリテーション病棟の稼働率は89.2%とほぼ想定通りであるため、それ以外の病床の病床稼働率の向上を含めて需要増への対応が必要ではないか。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果 【利根】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	6病床	39人/日	46床	83.9%	4.8日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	8病床	195人/日	236床	81.5%	7.8日	
		急性期	30病床	1,008人/日	1,445床	76.6%	11.9日	
		回復期	32病床	649人/日	1,150床	64.4%	18.2日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	7病床	304人/日	337床	90.2%	58.5日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	8病床	378人/日	403床	89.6%	107.2日	
	医療療養病床	慢性期	14病床	447人/日	634床	84.1%	153.4日	
介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
	産科の一般病床	急性期	6病床	100人/日	144床	73.8%	6.4日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	1病床	7人/日	40床	-	-	
		回復期	0病床	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	1病床	1人/日	10床	-	-	

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	233人/日	75.0%	81.9%
急性期	1,115人/日	78.0%	76.3%
回復期	953人/日	90.0%	71.3%
慢性期	825人/日	92.0%	86.6%
不明	22人/日	—	26.7%
合計	3,149人/日	—	75.9%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	90.2%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	81.9%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	64.1%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	66.0%
うち産科・小児科を除く有床診療所	33.7%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

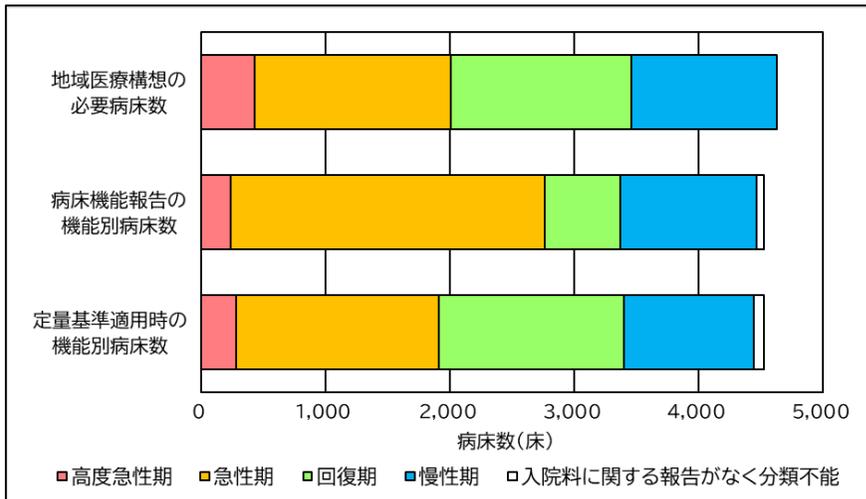
4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	14病床	233人/日	282床	232床	426床	81.9%	6.9日
急性期 計	37病床	1,115人/日	1,629床	2,526床	1,580床	76.3%	11.0日
回復期 計	39病床	953人/日	1,487床	612床	1,448床	71.3%	23.7日
慢性期 計	23病床	825人/日	1,047床	1,094床	1,176床	86.6%	127.8日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	4病床	22人/日	81床	62床※	-	26.7%	3.4日
合計等	117病床	3,149人/日	4,526床	4,526床	4,630床	75.9%	16.1日

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	19床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	62床
合計	81床

※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入棟患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。



## 【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 高度急性期のうち、救命救急・ICUの病床稼働率（83.9%）が想定 of 病床稼働率（75%）を大幅に上回る。
- ・ 高度急性期について、現在の病床数に比べ、地域医療構想における2025年の必要病床数がきわめて多い。
- ・ 現状で病床稼働率が高い高度急性期機能をどの病院・病棟が担うのかを明確化した上で、その増が必要ではないか。
- ・ 隣接する東部医療圏について、慢性期の病床の顕著な不足が見込まれることから、慢性期の入院患者の流入が、今後増える可能性も見込まれる。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果【北部】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	6病床	41人/日	91床	37.3%	3.1日	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	2病床	69人/日	88床	77.9%	9.4日	
		急性期	30病床	945人/日	1,232床	75.7%	14.4日	
		回復期	22病床	537人/日	816床	66.0%	18.5日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	3病床	143人/日	158床	97.2%	73.3日	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	3病床	108人/日	129床	76.2%	6954.0日	
	医療療養病床	慢性期	19病床	772人/日	906床	89.1%	185.2日	
介護療養病床	慢性期	0病床	0人/日	0床	-	-		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	産科の一般病床	急性期	9病床	167人/日	324床	53.6%	9.1日	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		急性期	1病床	13人/日	42床	30.9%	5.6日	
		回復期	1病床	1人/日	19床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病床	0人/日	0床	-	-	
		慢性期	1病床	9人/日	24床	-	-	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	8病床	109人/日	179床	260床	327床	63.2%	6.5日
急性期 計	40病床	1,125人/日	1,598床	2,171床	1,258床	69.4%	12.9日
回復期 計	26病床	681人/日	993床	332床	1,066床	69.4%	20.8日
慢性期 計	23病床	889人/日	1,059床	1,066床	791床	88.4%	194.2日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	4病床	0人/日	76床	76床※	-	0.0%	-
合計等	101病床	2,804人/日	3,905床	3,905床	3,442床	72.6%	20.2日

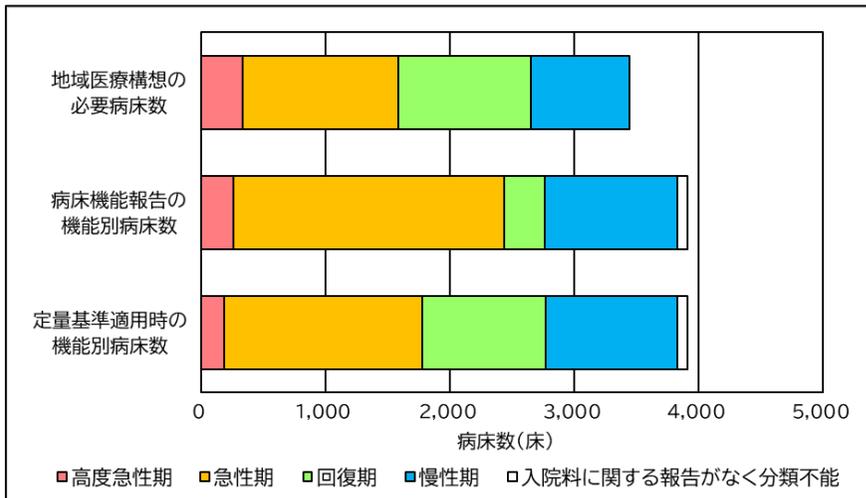
※休棟もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入院患者数と退院患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	109人/日	75.0%	63.2%
急性期	1,125人/日	78.0%	69.4%
回復期	681人/日	90.0%	69.4%
慢性期	889人/日	92.0%	88.4%
不明	0人/日	—	0.0%
合計	2,804人/日	—	72.6%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	97.2%
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	73.5%
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	64.0%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	83.1%
うち産科・小児科を除く有床診療所	30.0%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	0床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	76床
	76床



## 【集計分析結果から想定される課題】

- ・一般病棟等における急性期の平均在棟日数が14.4日と県平均より長い。
- ・回復期リハビリテーション病棟の病床稼働率が97.2%ときわめて高い。また、全病床数に占める割合が小さい(4.0% 県平均7.1%)。
- ・回復期リハビリテーション病棟の不足が、急性期から回復期への円滑な移行にあたっての課題ではないか。

# 平成30年度病床機能報告 定量基準分析結果 【秩父】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		急性期	5病棟	155人/日	203床	79.0%	16.3日	
		回復期	5病棟	147人/日	175床	83.9%	21.4日	
	回復期リハビリ病棟	回復期	1病棟	32人/日	40床	-	-	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	1病棟	54人/日	60床	89.6%	57.6日	
周産期	医療療養病床	慢性期	7病棟	195人/日	292床	66.7%	154.1日	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
	介護療養病床	慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
小児	産科の一般病床	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		回復期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	
		慢性期	0病棟	0人/日	0床	-	-	

4機能ごとに集計

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	定量基準適用時の機能別病床数	病床機能報告の機能別病床数	地域医療構想の必要病床数	病床稼働率(*)	平均在棟日数(*)
高度急性期 計	0病棟	0人/日	0床	0床	31床	-	-
急性期 計	5病棟	155人/日	203床	352床	174床	79.0%	16.3日
回復期 計	6病棟	179人/日	215床	95床	181床	83.9%	21.4日
慢性期 計	8病棟	249人/日	352床	322床	214床	70.6%	113.1日
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床(※)	1病棟	0人/日	29床	30床※	-	0.0%	-
合計等	20病棟	582人/日	799床	799床	600床	73.1%	29.6日

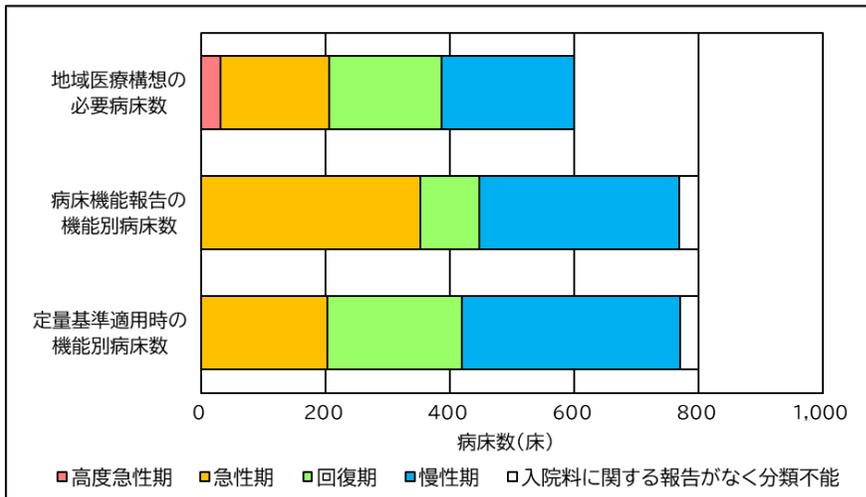
※休棟中もしくは現在の機能に関する報告のない病床数。

\*「病床稼働率」「平均在棟日数」は、「年間新規入棟患者数と退棟患者数とが大きく乖離」「救命救急・ICU等」以外で平均在棟日数が2日間未満、「産科以外で病床稼働率が100%超」の病棟を除いて算出。

	1日当たり入院患者数	病床稼働率(*)	
		地域医療構想の想定	今回の区分結果
高度急性期	0人/日	75.0%	-
急性期	155人/日	78.0%	79.0%
回復期	179人/日	90.0%	83.9%
慢性期	249人/日	92.0%	70.6%
不明	0人/日	-	0.0%
合計	582人/日	-	73.1%

回復期の内訳	病床稼働率(*)
うち回復期リハビリテーション病棟	-
うち産科・小児科を除く急性期一般病棟1、一般病棟7:1	-
うち産科・小児科を除く他の一般病棟	86.8%
うち産科・小児科を除く地域包括ケア病棟等	-
うち産科・小児科を除く有床診療所	73.4%
うち小児科の一般病棟・有床診	-

4機能区分	入院料に関する報告がない病棟等の病床機能報告の機能別病床数
高度急性期	0床
急性期	29床
回復期	0床
慢性期	0床
休棟中・無回答	0床
	29床



## 【集計分析結果から想定される課題】

- ・ 県全体と比べ、急性期の平均在棟日数がきわめて長く（16.3日、県平均10.8日）、慢性期の平均在棟日数が短い（113.1日、県平均159.2日）。
- ・ 高度急性期といった域内にない入院医療機能がある中で、病棟間の機能分化が、他の地域に比べて不明瞭である可能性がある。
- ・ 人口規模が小さいこと、2025年における必要病床数が現在の病床数を大きく下回ることを考慮すると、「域内での完結性を向上させるべき機能」「他地域との連携によって提供を図る機能」「県内他地域で不足が顕著となる中で、積極的に域内への受入れを図る機能」の整理が必要ではないか。

# (参考) 各圏域の定量基準による機能別病床稼働率 (平成30年度報告)

大区分	4機能区分まとめ					合計
入院料・診療科	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
4機能区分						
埼玉県全体	74.1%	78.2%	73.2%	85.4%	13.5%	76.7%
南部	81.3%	85.6%	78.4%	84.4%	0.0%	81.0%
南西部	52.5%	75.2%	69.9%	90.1%	-	74.7%
東部	69.6%	78.1%	78.0%	83.5%	16.6%	76.4%
さいたま	81.1%	79.8%	75.7%	80.3%	8.0%	77.3%
県央	81.1%	82.7%	72.8%	88.0%	12.1%	78.2%
川越比企	73.1%	81.7%	64.6%	87.7%	29.7%	76.2%
西部	71.3%	72.5%	77.4%	85.7%	0.0%	77.7%
利根	81.9%	76.3%	71.3%	86.6%	26.7%	75.9%
北部	63.2%	69.4%	69.4%	88.4%	0.0%	72.6%
秩父	-	79.0%	83.9%	70.6%	0.0%	73.1%

# (参考) 各圏域の定量基準による機能別平均在棟日数 (平成30年度報告)

大区分	4機能区分まとめ					合計
入院料・診療科	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	不明	
4機能区分						
埼玉県全体	7.5日	10.8日	23.1日	159.2日	11.8日	16.8日
南部	8.9日	10.5日	21.9日	88.2日	-	14.6日
南西部	8.4日	9.5日	24.2日	173.7日	-	16.9日
東部	7.2日	10.3日	25.5日	131.2日	94.4日	16.5日
さいたま	7.1日	10.7日	26.4日	200.5日	15.9日	13.2日
県央	6.7日	11.4日	22.5日	220.8日	9.0日	16.9日
川越比企	9.0日	10.8日	22.8日	145.4日	15.6日	18.3日
西部	7.2日	11.0日	21.2日	232.0日	-	20.4日
利根	6.9日	11.0日	23.7日	127.8日	3.4日	16.1日
北部	6.5日	12.9日	20.8日	194.2日	-	20.2日
秩父	-	16.3日	21.4日	113.1日	-	29.6日